

教科名	科目名	学科・学年・類型	単位数
公民	倫理	普通科・3年	2
教科書	[主たる教材] 高等学校 新倫理 新訂版 (清水書院)		
副教材等	[副教材] 最新図説 倫理 (浜島書店)		

1 学習目標

人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、青年期における自己形成と人間としての在り方生き方について理解と思索を深めさせるとともに、人格の形成に努める実践的意欲を高め、他者と共に生きる主体としての自己の確立を促し、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。

2 指導の重点

- ①知識・技能の習得に向けて
自己の生きる課題を解決に導けるような知識・技能の習得
- ②思考力、判断力、表現力の育成に向けて
グループ学習やプレゼンテーション等を通じ、習得した知識・技能を活用し、倫理的課題を自己の課題つなげて考えていく上で必要な論理的思考力や表現力の育成
- ③学びに向かう力の涵養に向けて
他者と共に生きる主体としての自己の確立を促し、良識ある公民として必要な能力の育成

3 学習計画

月	単元名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4月	第1編 現代に生きる自己の課題 第1章 人間とは何か 第2章 青年期の課題と自己形成 第2編 人間としての自覚と生き方 第1章 人生における哲学 第2章 人生における宗教 第1節 キリスト教—愛の宗教 第2節 イスラーム—啓示戒律の宗教 第3節 仏教—智慧と慈悲の宗教 第3章 人生の知恵 第4章 人生における芸術	・青年期の意義と課題を理解し、豊かな自己の生き方について考える。 ・先哲の基本的な考え方を手がかりとして、人間の存在や価値について思索を深める。 ・現代に生きる人間の倫理的課題について思索を深める。		定期テスト 授業の取り組み
7月	第3編 現代社会と倫理 第1章 現代の倫理的課題 第2章 現代に生きる人間の倫理 第1節 人間の尊厳 第2節 自然や科学技術と人間とのかかわり 第3節 民主社会における人間のあり方 第4節 自己実現と幸福 第5節 個人と社会のかかわり 第6節 現代における理性の問題		25	定期テスト 授業の取り組み

8月	第4編 国際社会に生きる日本人の自覚 第1章 日本の風土と外来思想の受容 第1節 日本の風土と伝統 第2節 仏教の伝来と隆盛 第3節 儒教の日本化 第4節 日本文化と国学 第5節 近世庶民の思想 第6節 西洋近代思想の受容 第2章 現代の日本と日本人としての自覚	・日本人にみられる人間観、自然観、宗教観などの特質について、我が国の風土や伝統、外来思想の受容に触れながら自己とのかかわりにおいて理解する。 ・国際社会に生きる日本人としての在り方生き方について自覚を深める。	35	定期テスト 授業の取り組み
12月	第5編 現代の諸課題と倫理 第1章 生命と倫理 第2章 環境と倫理 第3章 現代の家族とその課題 第4章 地域社会の変容と共生 第5章 情報社会とその課題 第6章 グローバル化の時代と倫理 第7章 人類の福祉と国際平和 テーマ別課題学習	・現代に生きる人間の倫理的課題についてグループ学習を通して思索を深め、自己の生き方の確立を目指す。		
3月			4	定期テスト 授業の取り組み

計 64 時間 (55 分授業)

4 課題・提出物等

- ・各単元ごとにワークシートやレポート作成の時間を設定しています。
- ・夏季休業中の課題は別途指示します。

5 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、青年期における自己形成について関心を高め、人格の形成と他者と共に生きる主体としての自己の確立に努める実践的意欲をもつとともに、これらに関わる諸課題を探究する態度を身に付け、人間としての在り方生き方についての自覚を深めようとする。	他者と共に生きる主体としての自己の確立について広く課題を見だし、人間の存在や価値などについて多面的・多角的に考察し探究するとともに、良識ある公民として広い視野に立って主体的かつ公正に判断して、その過程や結果を様々な方法で適切に表現している。	青年期における自己形成や人間としての在り方生き方などに関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を適切に選択して、これらを他者と共に生きる主体としての自己の確立に資するよう活用している。	青年期における自己の形成や人間としての在り方生き方などに関わる基本的な事柄を他者と共に生きる主体としての自己確立の課題とつなげて理解し、人格形成に生かす知識として身に付けている。
以上の観点を踏まえ、 ・授業の取り組み（授業態度、発表や討論の様子、学習活動への参加状況など） ・提出物などの内容 ・定期テスト などから総合的に評価します。			

6 担当者からの一言

「倫理」で扱う内容は、社会や人々との関係において、人としての在り方生き方に関わるものがほとんどです。だからこそ、授業をとおして「自分ならどうするか、どう行動するか」ということを意識しながら学習に取り組みましょう。また、「考える」ためには先人の思想を学ぶだけではなく、他者の意見や考えを参考にしたり、自分の意見を他者に理解してもらうことも大切です。他者と共に生きる主体として、一緒に学びを深めていきましょう。

(担当: 中山 英一)